

UNISECの活動にご協力ください。

UNISECは、「自助努力」「互恵」の精神をもって宇宙プロジェクトに取り組む大学・高専の学生及び教官を支援しています。支援する側と支援される側が協働していく中で、ともに学び、ともに成長し、ともに喜びを分かち合えるような場を作っていきます。

UNISECの活動にご興味をお持ちいただきましたら、UNISEC会員としてご登録ください。
UNISECの趣旨に賛同し、ともに活動して下さる方、ご支援頂ける方の参加をお待ちしております。

個人正会員	1万円
個人賛助会員	2万円
非営利団体正会員	2万円
非営利団体賛助会員	4万円
営利団体正会員	5万円
営利団体賛助会員	10万円
WEB会員	無料

- ・入会金（一律1万円）を申し受けます。
- ・WEB会員は、全て無料です。入会金は必要ありません。
- ・上記の会費は1口あたりの値段です。
- ・正会員は、総会の議決権を持ちます（口数に関わらず、1票分です）。

お申し込み方法

UNISECホームページから申し込み用紙をダウンロードしてFAX、あるいはE-mailにてお申し込みください。

お問い合わせ

info@unisec.jpまでどうぞ



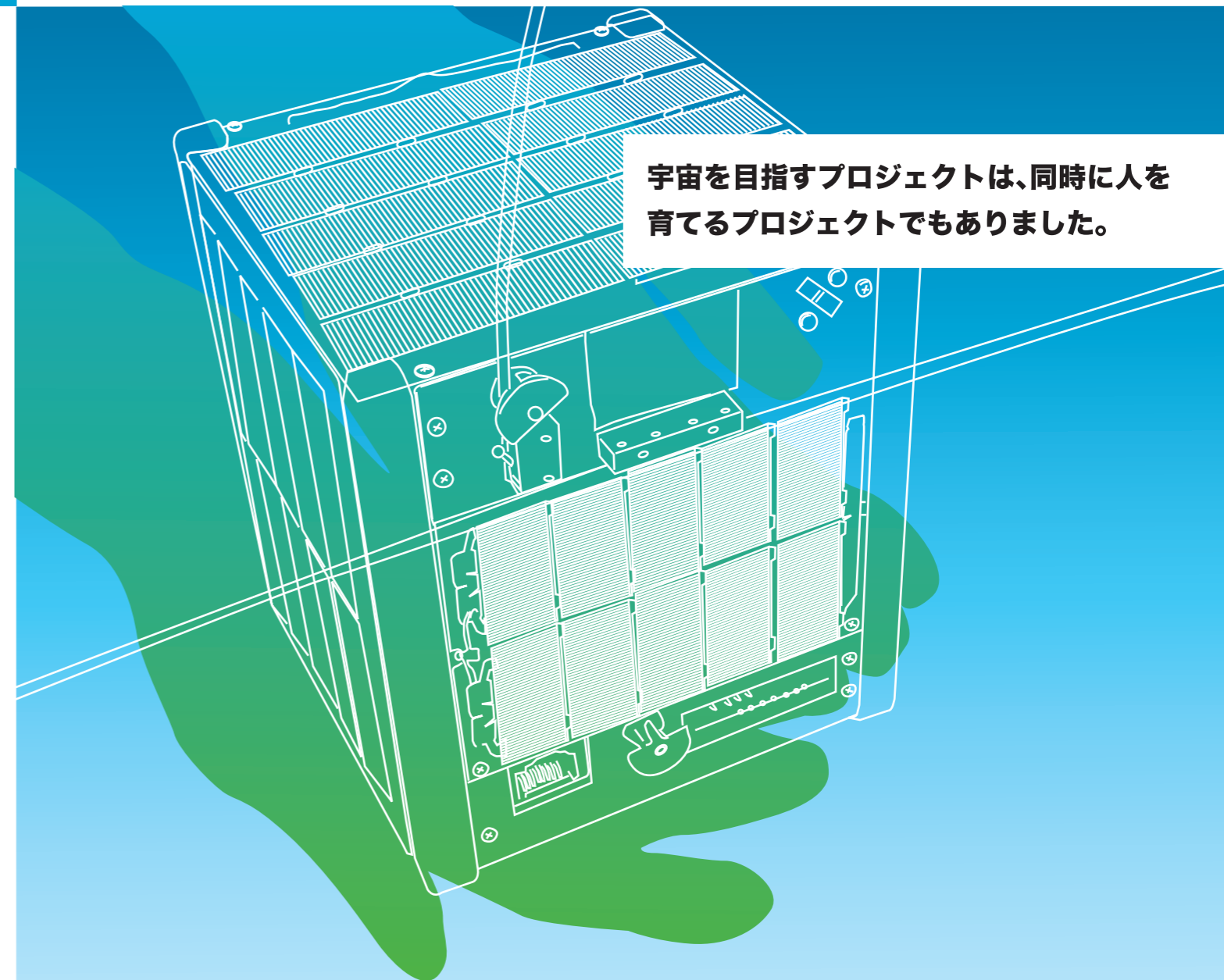
UNISEC事務局

〒113-0032 東京都文京区弥生2-6-7-101

TEL・FAX: 03-5800-6645 E-mail: info@unisec.jp

University Space Engineering Consortium

宇宙を目指すプロジェクトは、同時に人を
育てるプロジェクトでもありました。



UNISEC (University Space Engineering Consortium:大学宇宙工学コンソーシアム)とは?

UNISECは、大学・高専学生による手作り衛星やロケットなどの実践的な宇宙工学活動を促進・支援することを目的とするNPO法人です。宇宙工学プロジェクトを行う学生・教官を支援し、宇宙開発の新たな道を創っていきます。UNISECは、ものづくりを通じた次世代の人材育成を提案するプラットフォームです。UNISECは、成長・進化しつづける、生きた組織です。毎年、新しい学生がフレッシュな発想を持って参加し、刺激を与えあう大学という場を生かし、変化しつづけていきます。UNISECは、Unique(ユニークで)、Never-give-up(あきらめず)、Innovative(別のやり方で)、Sincere(誠実に)、Energetic(元気いっぱい)、Challenging(チャレンジする)人材を育てます。

UNISECの3つのミッション

ミッション1:	ミッション2:	ミッション3:
人材育成	技術開発	アウトリーチ
学生だけでなく、この活動に貢献するすべての人が成長できる場を作ります。支援する側と支援される側が、思いやりをもって協働する中で、刺激しあい、智恵を出し合い、共に成長していきます。	未来を切り開くための技術開発に挑戦します。常識や前例に縛られない学生ならではのアイデアと実行力を大事にし、切磋琢磨していくことにより、小型衛星とロケット分野における技術シーズの発掘とニーズの創出を目指します。	宇宙開発をより多くの人に知ってもらうための橋渡しをします。大学・高専の学生の活動を通して、宇宙技術開発の生の姿を伝え、また、より多くの人が開発に参加できるような道を模索します。

UNISECの参加大学

[ロケット]

北海道工業大学	射点回収型有翼飛行体回収システムの開発
北海道大学	CAMUIハイブリッドロケットの開発
室蘭工業大学	パラフォイル回収システムの開発
筑波大学	バルステーションエンジン飛行実証機の製作
都立航空高専	多目的小型ロケット用エンジンの開発
青山学院大学	液体窒素ロケットの開発、バルステーションエンジンの開発
都立科学技術大学	酸化剤旋回型ハイブリッドロケットの開発
東海大学	宇宙飛行体用無火薬分離機構の開発
大阪府立大学	二液式コールドガスロケットエンジンの開発
武蔵工業大学	教育用水ロケットシステム、Cold Gasロケットシステム

[衛星]

北海道工業大学	超小型衛星開発、北海道衛星
東北大学	宇宙ロボティクス、超小型衛星開発、ローバー開発
東京電機大学	無線通信、アンテナ製作
日本大学	超小型衛星開発、軌道上膜構造物展開実験
都立航空高専	超小型衛星プロジェクト、推進機・姿勢制御実験
東京大学	超小型衛星開発、フォーメーションフライトの軌道上実証
慶應義塾大学	人工衛星の精密方向制御、宇宙ロボット、宇宙往還機
東京工業大学	宇宙システム開発、高エネルギー宇宙物理、AIの宇宙応用
電気通信大学	小型のテレメトリおよびアンテナの研究開発
創価大学	超小型衛星開発、耐放射線性アーキテクチャを持つCPUの開発
九州大学	超小型衛星開発、テザー衛星開発
九州東海大学	低周回衛星追尾観測
香川大学	テザー宇宙ロボット

(21大学30団体が加盟、2004年11月現在。最新情報は[こちら](http://www.unisec.jp/member/university.html) <http://www.unisec.jp/member/university.html>)

UNISECの活動の中から生まれた成果

ハイブリッドロケットの開発が進み、市販できるようになりました。CubeSat 2機が打ちあがり、1年以上にわたって正常に動作し、地球画像が送られてきています。(2003年6月)



UNISECのおもな活動



総会
毎年定期的に開かれる、NPO法人大学宇宙工学コンソーシアムの総会。各団体の活動報告会も同時に開催。



ワークショップ
ロケット、小型衛星に取り組む大学が一堂に会し、研究開発の進捗報告を行うほか、テーマに分かれて学生が議論する場を提供するワークショップ。2002年は東工大にて、2003年は北海道工業大学にて、2004年は九大にて開催。



USSS派遣
University Space System Symposium
日米の大学生・大学院生が宇宙システム設計開発・運用共同プロジェクトの提案、既に打ち上げられているプロジェクトの活動報告および将来計画の発表、活動計画立案を行う。



大樹町ハイブリッドロケット打ち上げ実験支援
北海道大樹町におけるロケット打ち上げ実験
第1回打ち上げ:2003年1月13日 北海道大学、北海道工業大学
第2回打ち上げ:2004年3月13日~15日 北海道大学、北海道工業大学、東海大学



キューブサットシンポジウム
CubeSat Symposium
小型衛星を製作している大学・企業・機関のシンポジウム。第1回国際CubeSatシンポジウム(2003.3.10~11)には、世界6ヶ国のCubeSatと超小型衛星開発者120名が参加し、ミッションアイデアコンテストも実施した。



カムバックコンペティション
Comeback Competition
気球やロケットなどを使い、上空から350ml缶サイズの手作り人工衛星を放出。目標点へ自律的に落下させ、着陸地点と目標地点との距離で評価するチーム対抗戦。



CanSat打ち上げ実証実験支援*
学生製作の衛星打ち上げを行うARLISS(A Rocket Launch for International Student Satellites)プロジェクト支援。99年より毎年ブラックロック砂漠にてパラフォイルやローバーを使った自律制御コンペを開催。*米国のアマチュアロケットグループ「エアロバック」のご協力をいただいています。

(UNISECの主な活動についての最新情報は[こちら](http://www.unisec.jp/history/index.html) <http://www.unisec.jp/history/index.html>)

UNISECのチャレンジ

「手作り宇宙開発で、手の届く宇宙へ」一価格はリーズナブルに、開発期間は短く、精確こめて作ります—学生たちが手掛けたCubeSatは10cm角という手のひらに乗るような小さな衛星ですが、上空820kmから地球画像を送信するなど、打ち上げから1年以上経った今(2004年11月現在)も正常に動作し続けています。学生ならではのフットワークの軽さを活かし、通常の人工衛星よりも安価で製作期間の短い衛星を作り上げることができました。その製作期間の間、密度の濃い日々を過ごしなが、衛星を完成させた学生は成長し、社会に貢献する人材として巣立っていきました。宇宙開発プロジェクトのアウトプットは衛星やロケットそのものだけでなく、宇宙開発プロジェクトに挑戦して成長した学生たちなのです。宇宙開発を通じて人材を育てるといふ独自のチャレンジを続けるNPO・UNISECを応援してください。

